

平成27年度
家庭教育に関する
調査研究報告書



栃木県PTA連合会

目 次

あいさつ	2
「アンケート調査」の概要	3
I 栃木県内25校のPTA会員向けアンケート	4
II 子育てセミナー2015参加者向けアンケート	5
アンケート結果	
I 栃木県内25校のPTA会員を対象とした調査結果	
①調査人数とお子さんの学年	6
②お子さんの学年と性別	6
③お子さんは朝ごはんを食べますか	7
④主にどんな内容の朝ごはんを食べていますか	8
⑤朝食を主に誰と一緒に食べますか	9
⑥お子さんの平日の起床時間は何時が多いですか	10
⑦お子さんの平日の就寝時間は何時が多いですか	11
⑧PTAの取り組み事業として最も興味をお持ちなのは	12
⑧PTAの取り組み事業として最も興味をお持ちなのは(詳細)	14
「いい親の日」宣言	15
II 子育てセミナー2015の参加者を対象とした調査結果	
講演の内容	17
調査人数とお子さんの学年	18
お子さんは専用の携帯電話をお持ちですか	18
主な用途はなんですか	19
利用しているSNSや機能はなんですか	18
いつごろ持たせようと思いますか	20

あいさつ

栃木県PTA連合会長 渡 邊 宏 幸

はじめに、調査研究のためにアンケートへのご協力をいただきました県内の会員の皆様に対しまして、厚く御礼申し上げます。このアンケートは県内 25 市町の会員皆様ならびに子育てセミナー参加者にご回答をいただきました。

本当にありがとうございました。

「子育てセミナー2015」は高濱正伸氏を講師に迎え、「母親だから できること」と題して講演をいただきました。多くの参加者が終始笑いの中、真剣に耳を傾け、講演者の話に引き込まれておりました。参加いただいた会員の皆様には子育てに対する向き合い方、親としてのあるべき姿など参考になることを学んでいただけたと思います。

ところで、最近問題となっているのは子どもたちの生活習慣の乱れの問題です。特にスマホ・インターネットなどの使い方やルールづくりは喫緊の課題です。「早寝・早起き・朝ごはん」の基本的な生活習慣をしっかりと身に付けさせ、子どもたちの健全育成に全力で取り組みたいものです。そのような情報がこの調査研究報告書には満載です。今後の生活環境の改善・充実につながるようさまざまな場面での活用を期待いたします。

私たちPTAは、『家庭教育』がすべての教育の出発点であり、基本理念「教育の原点は家庭にある」を常に意識し、学校教育や社会教育を通して子どもたちがいつでも安全で安心して生活し、心豊かに育つための生活環境や教育環境を良くするため力を合わせ、活動していくことが大切です。

県P連のスローガンは「高めよう 家庭の教育力 学び合い 行動するPTA」です。これからも時代の変化や要求に対応した情報を収集し、発信活動を実施してまいります。どうぞよろしく願いいたします。

最後に、調査研究報告書の作成にご尽力いただきました県PTA連合会教育課題委員会の皆様をはじめ関係各位に深く感謝申し上げます、あいさつとさせていただきます。

～「アンケート調査」の概要～

1、目的

栃木県PTA連合会の基本方針である「子どもに基本的な生活習慣を身に付けさせ、学校教育の更なる充実のために支援する体制を確立する」ために、状況を把握し、基礎資料として情報提供するとともに、保護者自らが子どもの生活習慣を振り返ることを目的とする。

2、調査対象者

I. 平成27年度 栃木県内25校のPTA会員

【調査協力校】

宇都宮市立富屋小学校	上三川町立本郷北小学校	鹿沼市立楡木小学校
日光市立大桑小学校	真岡市立中村中学校	益子町立田野小学校
茂木町立逆川中学校	市貝町立市貝中学校	芳賀町立芳賀中学校
壬生町立壬生東小学校	野木町立新橋小学校	小山市立小山第二中学校
栃木市立国府北小学校	下野市立古山小学校	矢板市立泉小学校
さくら市立喜連川小学校	塩谷町立玉生小学校	高根沢町立北高根沢中学校
那須烏山市立七合小学校	那珂川町立小川中学校	大田原市立金田北中学校
那須町立田代友愛小学校	那須塩原市立南小学校	佐野市立佐野小学校
足利市立第三中学校		

II. 11月17日（火）開催「子育てセミナー2015」参加者

3、調査方法

調査票は、P4・5の2種類を用いた。

4、調査期間

平成26年11月

5、調査機関

栃木県PTA連合会 教育課題委員会

I 平成27年度 栃木県内25校のPTA会員に向けたアンケート調査票

問1 在学している一番下のお子さんについてお聞きします。お子さんは、何年生ですか？

小学校 ①1年生～3年生(男 女) ②4年生～6年生(男 女)

中学校 ①1年生(男 女) ②2年生(男 女) ③3年生(男 女)

問2 問1で回答したお子さんは、朝ごはんを食べますか？(1つに○)

1、毎日食べる 2、時々食べる 3、ほとんど食べない

※スナック菓子・サプリメントは含まない

問3 問1で回答したお子さんは、主にどんな内容の朝ごはんを食べていますか？

※週に3日以上食べている項目に「○」を、食べていない項目に「×」を記入ください

①主食(ご飯・パン・シリアル) ※菓子パンは含まない

②主菜(卵・肉・魚類など)

③副菜(野菜類など)

④汁物(味噌汁・スープ類)

⑤果物・牛乳・ヨーグルトなど

⑥その他(菓子パンなど)

問4 問1で回答したお子さんは、朝食を主に誰と一緒に食べますか？(1つに○)

1、家族と一緒に 2、兄弟姉妹だけで食べる 3、ひとり

問5 問1で回答したお子さんの平日の起床時間は何時が多いですか？(1つに○)

1、午前6時前 2、午前6時～7時未満 3、午前7時～8時未満

4、午前8時以降

問6 問1で回答したお子さんの平日の就寝時間は何時が多いですか？(1つに○)

1、午後8時前 2、午後8時～9時未満 3、午後9時～10時未満

4、午後10時～11時未満 5、午後11時以降

問7 PTAの取り組み事業として興味をお持ちなのは何ですか？

(各ジャンルから気になるものに○ 複数可)

●基本的な生活習慣・家庭教育

①食事 ②睡眠 ③学校生活 ④友人関係 ⑤学力向上 ⑥しつけ ⑦親子の時間

●携帯電話・インターネット

①メール ②ライン ③Facebook ④Twitter

⑤ブログ ⑥フィルタリング ⑦オンラインゲーム

●安心・安全

①通学路 ②不審者 ③地域連携 ④自然災害

●いじめ問題

①研修・講演会・調査 ②ネットいじめ ③道徳、モラル ④学校での指導・対策

●不登校・ひきこもり

①研修・講演会・調査 ②家庭での対応 ③学校での指導・対策

Ⅱ 11月17日(火)開催の「子育てセミナー2015」参加者に向けた調査票

《お子様について》

現在、小・中学校に在籍の一番上のお子様は何年生ですか？

- ①小学校1-2年 ②小学校3-4年 ③小学校5-6年 ④中学生

《子育てセミナーについて》

【問1】 本日のセミナーについて、講演の内容はいかがだったでしょうか？

- ①大変よかった ②よかった ③ふつう ④よくなかった ⑤わからない

【問2】 曜日の設定はいかがだったでしょうか？

- ①平日でよかった ②土・日がよかった ③どちらでもかまわない

【問3】 講演の感想またはご意見をお書きください

【問4】 今後の子育てセミナーで聞いてみたいジャンルはありますか？（複数選択可）

- ①家庭教育 ②食育・健康 ③学校教育 ④組織運営 ⑤地域連携
⑥広報活動 ⑦安全・安心 ⑧国際理解 ⑨人権教育 ⑩生活習慣
⑪学力向上 ⑫携帯電話・インターネット ⑬その他（フリー回答）

【問5】 今後の子育てセミナーで聞いてみたい講師・内容はありますか？

《携帯電話について》

現在、小・中学校に在籍の一番上のお子様は専用の携帯電話はお持ちですか？

- ①持っている ②持っていない

「①持っている」とお答えの方にお伺いします

●主な用途は？

- ①家族間の連絡のみ ②友人との連絡用 ③インターネット ④わからない

●利用しているSNSや機能は？（複数選択可）

- ①LINE ②Facebook ③Twitter ④ブログ ⑤携帯メール ⑥ゲームアプリ ⑦通話のみ

「②持っていない」とお答えの方にお伺いします。いつごろ持たせようと思いますか？

- ①高校卒業時 ②高校入学時 ③中学入学時 ④欲しいといわれたらすぐにも

I 平成27年度 栃木県内25校のPTA会員 を対象とした調査結果

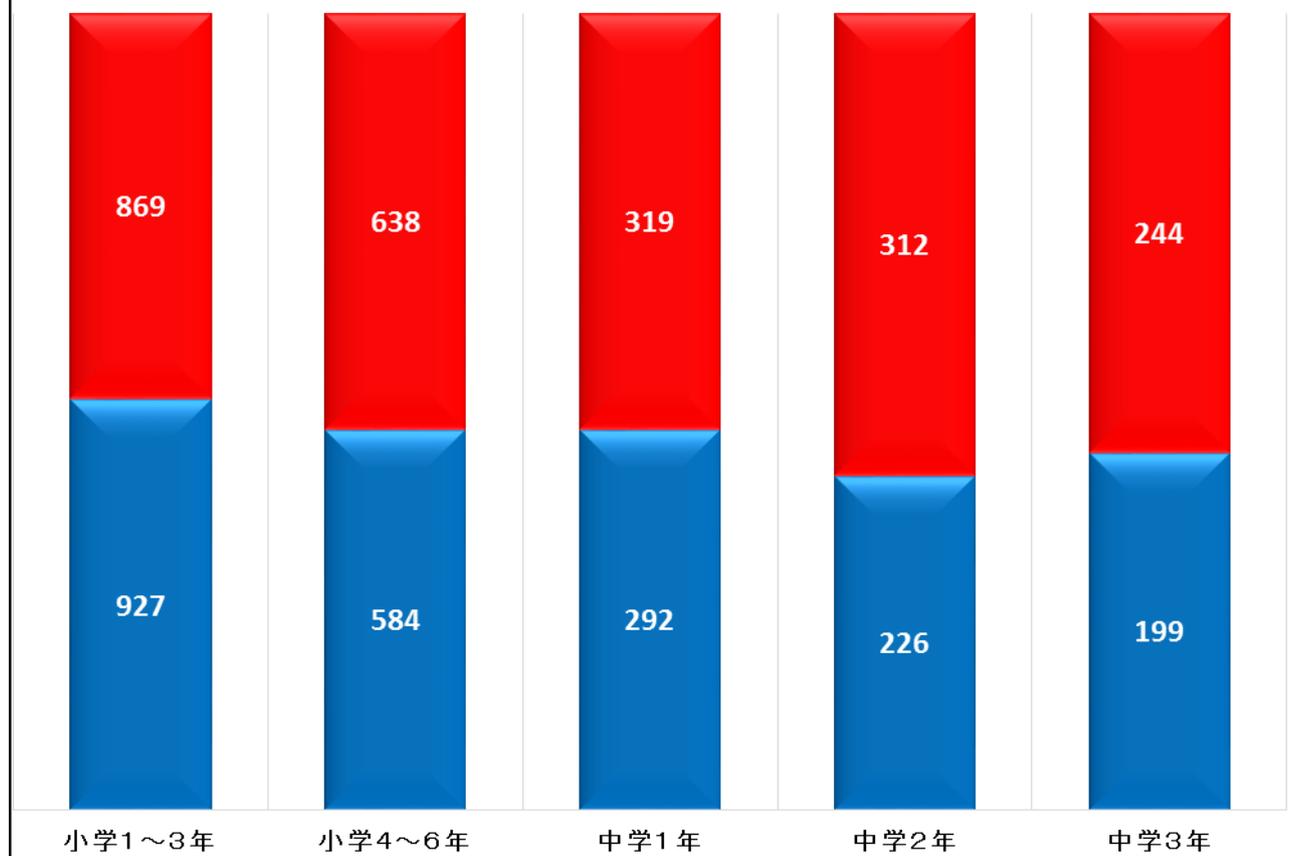
① 調査人数とお子さんの学年

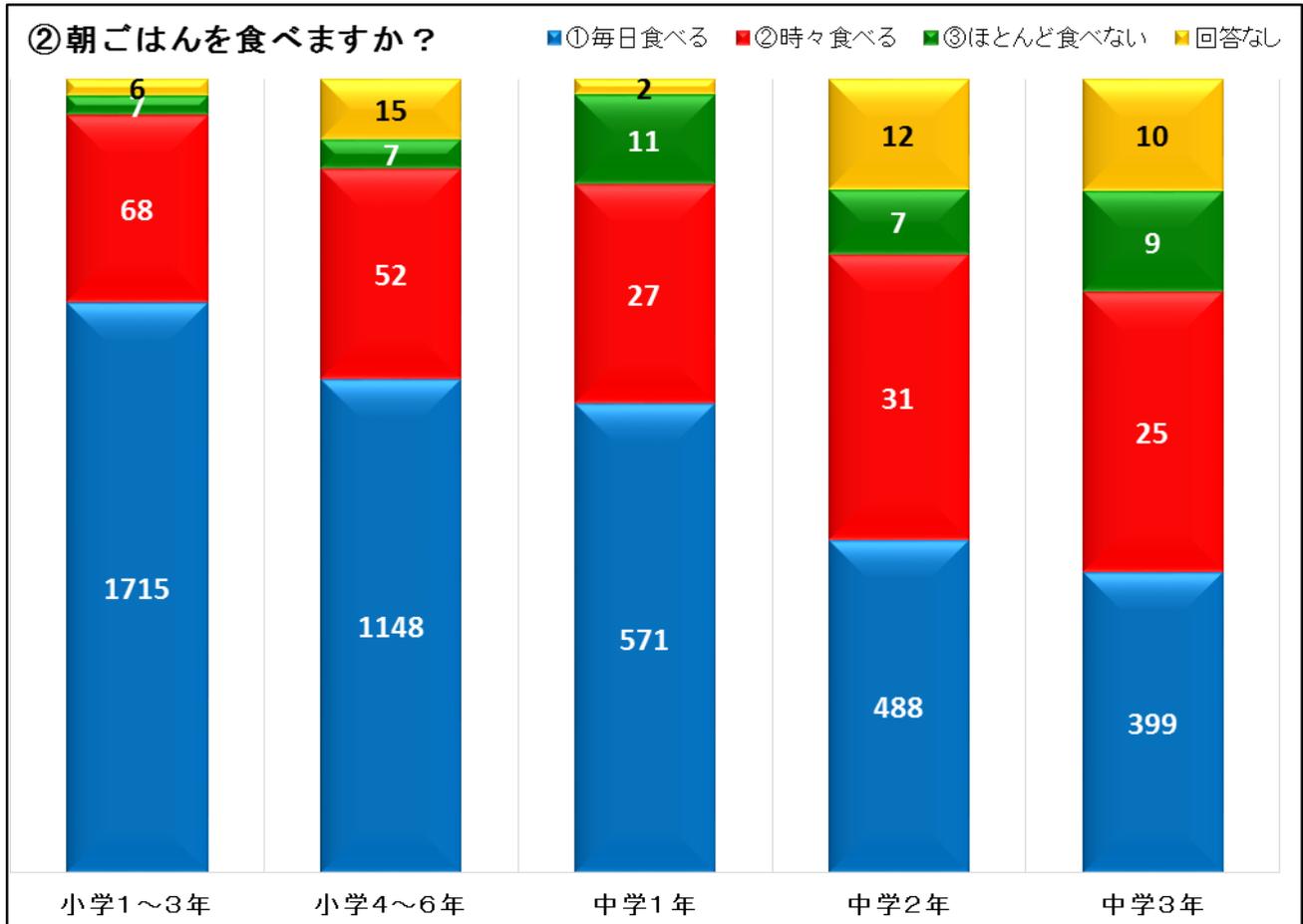
数字は該当人数(名)

小学低学年	小学高学年	中学1年	中学2年	中学3年	合計
1796名	1222名	611名	538名	443名	4610名

① お子さんの学年と性別

■男 ■女





小学生の94%、中学生の91%が朝ごはんを毎日食べています。「ときどき食べる」も合わせると、小学生で98%、中学生で96%と非常に高い割合となります。

文部科学省の全国学力テストでの小学6年生朝食摂取率の調査でも、全国平均が95.6%、栃木県は都道府県15位で96.5%であり、ほぼ同じような結果です。（「都道府県別ランキングと統計で見る県民性」のホームページより）

栃木県を含め全国的に9割の子どもが朝ごはんを毎日食べているという事は、「朝食が頭や体の目覚ましになる」という自治体の取り組みが功を奏しているからではないかと思います。（「親学習プログラムに使える資料集」のホームページより）

しかし、学年が上がるにつれ、朝ごはんを毎日食べる割合が減っています。しかも「ほとんど食べない」という子どもの割合は、小学生では0.5%だが中学生ではその3～4倍となっています。理由として、一部の中学生が夜遅くまで勉強やネット・SNSを行った結果、早起きできないことや、部活の朝練等が影響していると考えられます。学校や家庭も連携して、朝食摂取の大切さを今後も伝えていく必要があります。

④ 主にどんな内容の朝ごはんを食べていますか？

- A：主食（ご飯・パン） ※菓子パンは含まない
 B：主菜（卵・肉・魚類などのたんぱく質を多く含むもの）
 C：副菜（野菜類など） D：汁物（味噌汁・スープ類）
 E：果物・牛乳・ヨーグルトなど F：その他（菓子パンなど）

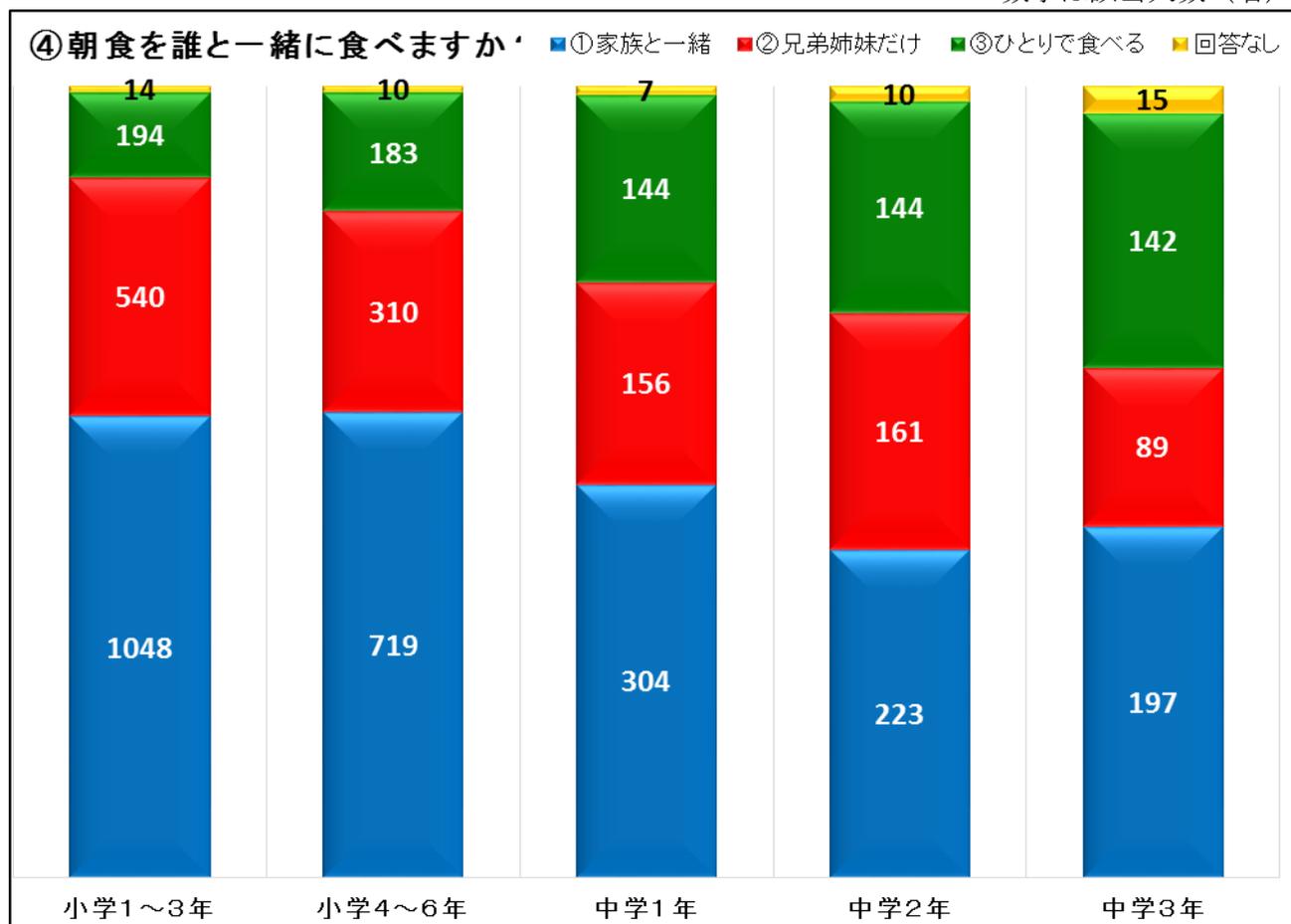
調査人数
 4,610名
 内27名は回答なし

数字は該当人数（名）

～上位詳細データ～

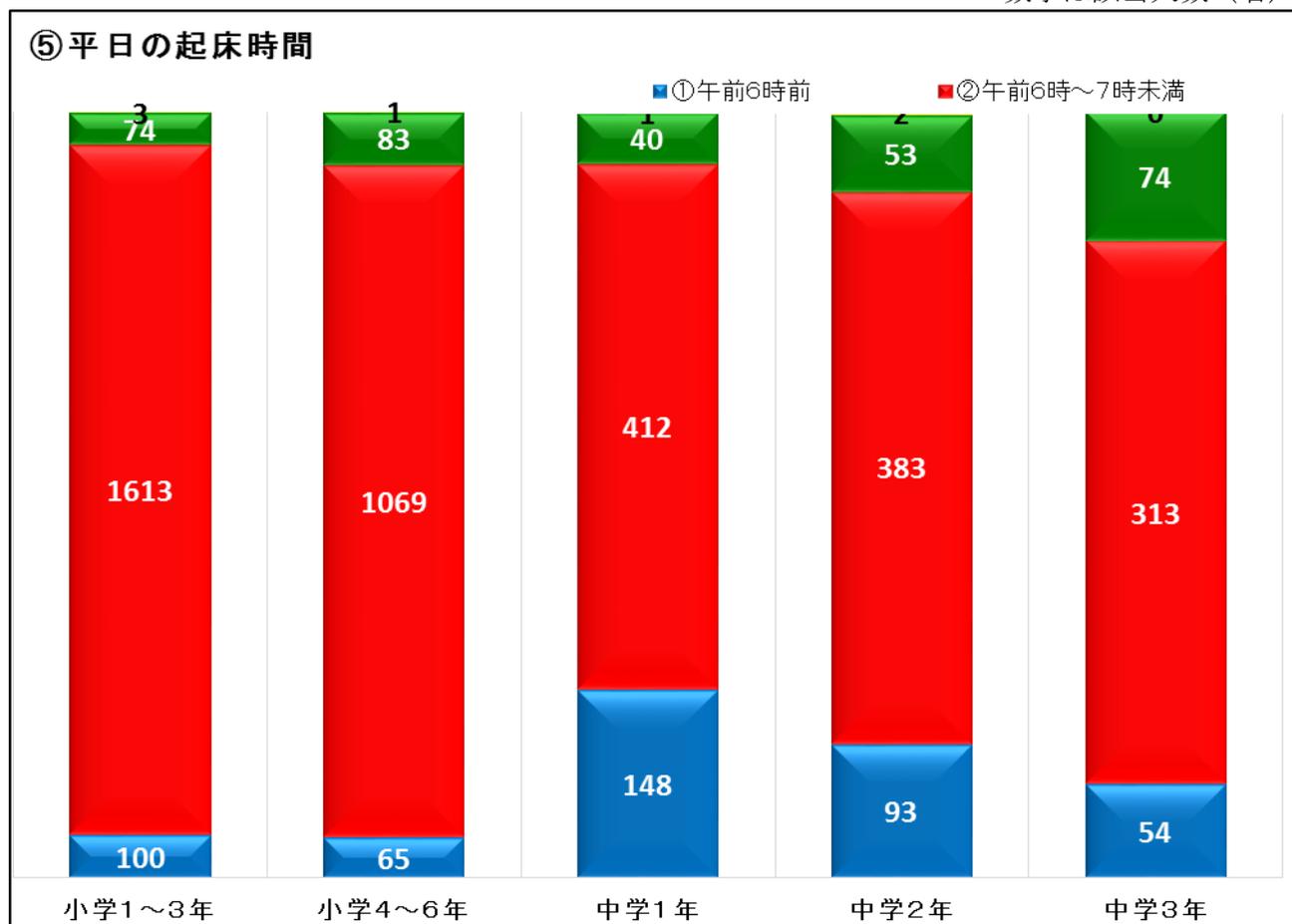
A:主食	B:主菜	C:副菜	D:汁物	E:果物等	F:その他	小1~3	小4~6	中1	中2	中3	合計
○	○	○	○	○	×	278	209	91	68	69	715
○	○	×	○	○	×	202	124	53	41	50	470
○	○	×	×	○	×	147	100	45	41	28	361
○	○	×	○	×	×	121	94	35	47	36	333
○	○	○	○	○	○	110	91	50	41	25	317
○	○	○	○	×	×	85	89	51	47	37	309
○	○	○	×	○	×	104	58	32	41	19	254
○	○	×	×	×	×	79	51	33	33	33	229
○	×	×	○	○	×	100	44	20	15	15	194
○	×	×	×	○	×	78	43	24	16	12	173
○	×	×	×	○	○	64	28	10	14	8	124
○	○	○	×	×	×	38	29	17	20	9	113
○	○	×	×	○	○	49	25	14	13	10	111
○	○	×	○	○	○	47	28	18	11	4	108
○	×	×	○	○	○	40	23	11	6	6	86
○	×	×	×	×	×	31	21	13	7	14	86
○	×	×	○	×	×	27	20	7	9	3	66
○	○	○	×	○	○	18	8	10	15	4	55
○	×	○	○	○	×	27	10	8	2	6	53
○	○	×	×	×	○	16	16	8	4	2	46

数字は該当人数（名）



各学年共に「家族と一緒に」という回答が一番多く、小学生では59%、中学生では46%でした。また、学年が上がるにつれて「ひとりで食べる」割合が多くなっていますが、小学生と中学生では起床時間や家を出る時間が違い、家族それぞれが自分の都合による孤食になってしまうなどが原因と思われます。

日々の生活において、保護者に用意された食事を摂るのと、自分で用意した食事を摂るのとでは、心身共に成長を遂げる大事な時期において、及ぼす影響は多大であると思います。それぞれが朝の忙しい時間の中でも「今日の調子はどうかな？」等のコミュニケーションを取りながら、朝食を摂ることが必要だと思われます。

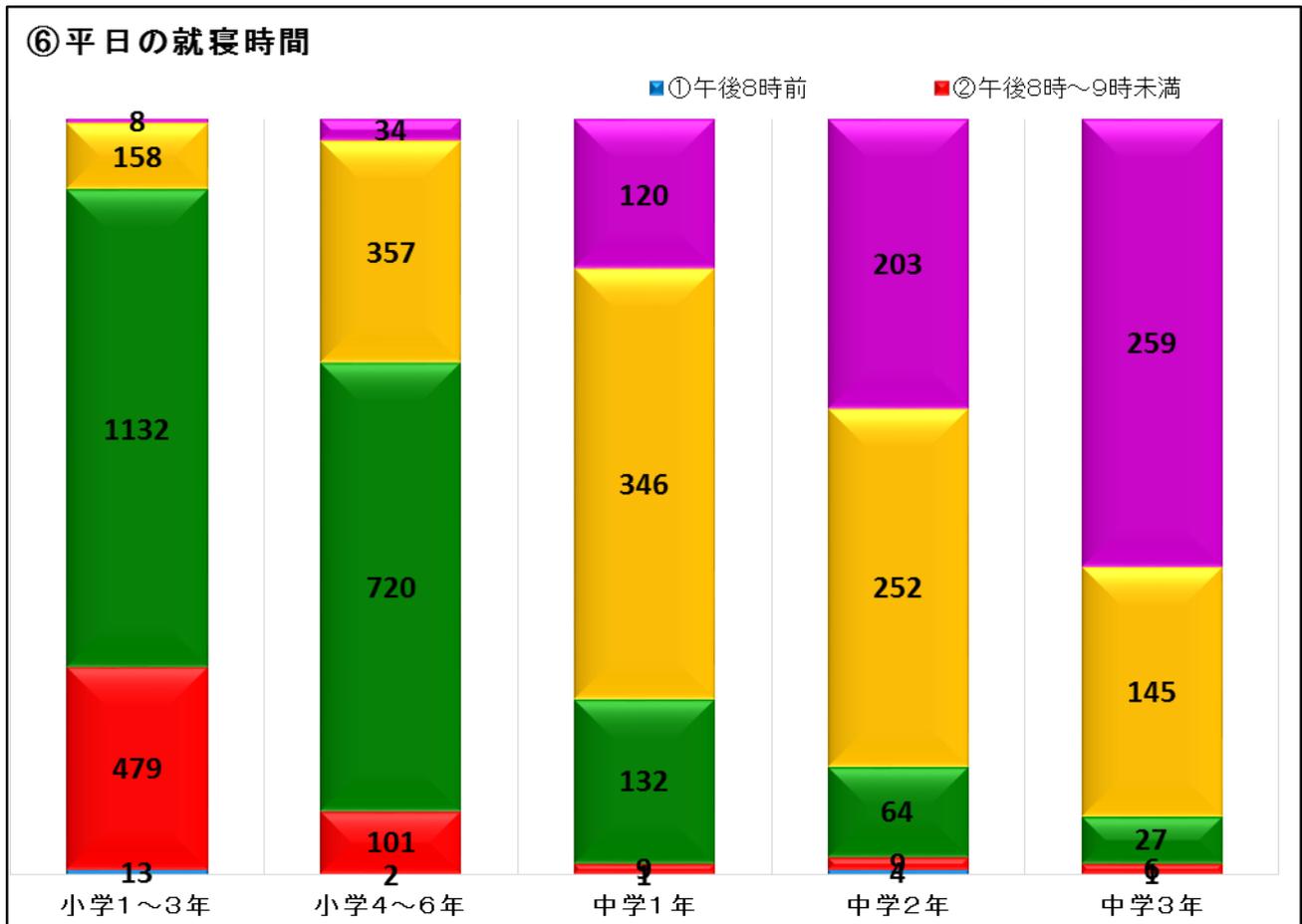


全体の82%の子供たちの起床時間は「午前6時～7時未満」という結果が得られました。各小中学校の普段の登校時刻を考えた場合、この時間帯であれば朝食を摂ってから登校するに至るまでの妥当な時間と考えられます。

また、2番目に多い「午前6時前」については、小学生の6%に対し、中学生が19%と高い比率に変わっています。特に中学1年生で24%、中学2年生で17%と大幅に増えることから、中学校までの通学距離、朝練等の部活動への取り組みが早起きに繋がっていると考えられます。ただ、中学3年生になると16%の人が「午前7時～8時未満」の時間帯に起きていますが、受験勉強、学習塾への通いなどで、11時以降就寝の割合が約6割（問6参照）になることから、この時間帯に起きる割合が増えていると考えられます。

中学生になると、部活動や受験勉強などで、生活のリズムがくずれがちになり、子どもたちの健やかな成長に支障をきたす恐れがあります。

各家庭では、中学生の基本的な生活習慣向上に充分配慮しながら、改善に努めていくことが必要です。



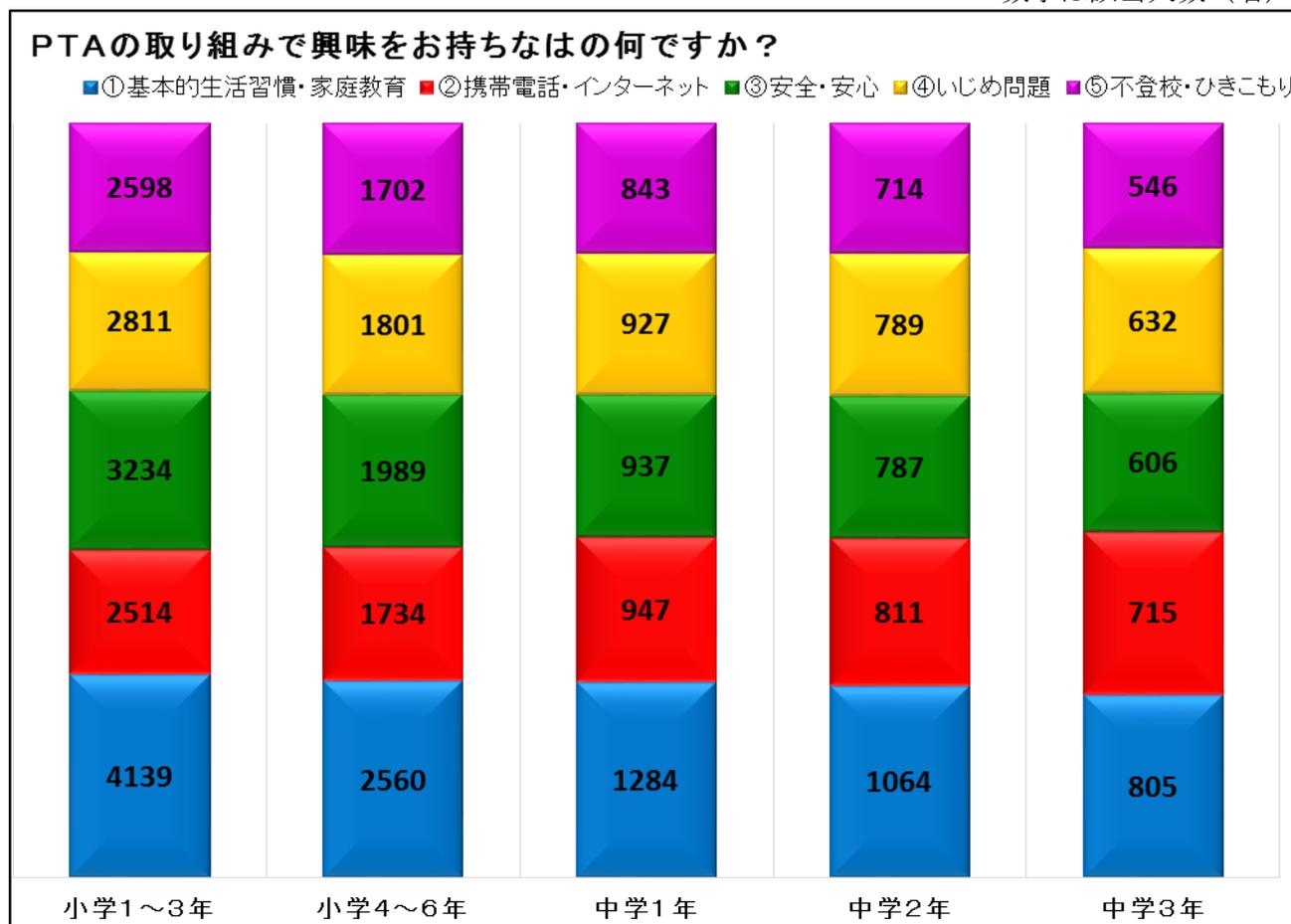
昨年の集計結果同様、小学生では「午後9時～10時未満」が半数以上を占めています。中学1、2年生で「午後10時～11時」、中学3年生においては午後11時以降となっています。

お子様のおかれている家庭環境もさまざまだと思いますが、睡眠不足は集中力を欠き学校生活への支障をきたすものだと思います。

また、成長期に睡眠が不足すると成長ホルモン等の分泌量の減少になるとも言われています。特に小学生の就寝時間はお子様の自主性に任せず、保護者の指導（就寝時には声をかける、睡眠の大切さを教える等）が大切ではないかと思いました。

中学生に関しては学習時間も大切ですが、規則正しい生活でリズムを整える事も学習能力が身に着く大切な事だと思いますので、保護者としてサポートしていく事が大切だと思います。

『早寝早起き朝ごはん』の最も重要なことは、まず「何時に寝るか？」という事にあると思います。



【基本的な生活習慣・家庭教育について】

多くの保護者が子どもの学年を問わず、学校生活や友人関係に興味を持っています。また、学年が上がるにつれて学力向上への関心も高まっています。小学生ではしつけや親子の時間も大切にしているようです。

【携帯電話・インターネットについて】

全ての選択肢において、低年齢化の傾向が見られます。特にフィルタリングでは、26年は中2の割合が12%（中2全体）でいちばん多かったのに対し、27年では小学1～3年が11%（小1～3全体）と全体の中では最も高い割合となっています。

また、最も関心の高いラインについて、26年は中2の割合が36%に対し、27年も中2が最も高く42%とさらに興味が高まっているようです。

このようなことから、保護者には携帯電話やスマホ所持の低年齢化に対する不安が、間違いなく進んでいるものと思われます。

【安全・安心について】

いずれの項目も高い関心を示していますが、その中でも「不審者」が最も高く、「通学路」が続きます。頻りに報道される不審者に関する情報や児童生徒が巻き込まれる交通事故に対して、不安を抱える保護者が多いことが伺えます。

【いじめ問題について】

どの学年の保護者も最も関心を持っているのは「学校での指導・対策」でした。次に多かったのは小学1～6年では「道徳・モラル」、中学1～3年では「ネットいじめ」となりました。これは正に今の子どもたちを取り巻く環境がそのまま出た結果ではないでしょうか。トラブルは、小学生に関しては友達同士の「人対人」に、また、中学生に関しては目に見えない「ネット」に発生するようです。

「いじめ問題」に関しては、メディアでのさまざまな情報により保護者自身も不安になっているのではないかと感じました。子どもにとって一番のコミュニティは学校です。「いじめ」に対する指導や対策を強く望んでいるようです。また、親同士のコミュニケーションも大切です。親同士が仲良ければ子ども同士のいじめは起こりにくいと思われま

【不登校・ひきこもりについて】

全ての分野で、中1の割合が一番高い結果になっています。環境が変わった不安など、子どもの目線で対話していく事が大切なのではないのでしょうか。

また、「学校の指導・対策」への関心は全学年で4割に達しています。学校と家庭で連携を取っていく事が大切だと思われま



ロゴマークの意味

IJIME 0 (いじめゼロ) の頭文字 I・J・M・0 を意匠化しました。二人の子どもが向き合い、ほほえみを交わしながら、大切な芽を共に育てていく姿がモチーフです。芽は、子どもたちの「友情」を表しています。

(作者の創作の意図より)

⑧ P T Aの取り組み事業として、興味をお持ちなのは何ですか（詳細）

数字は該当人数（名）

●基本的な生活習慣・家庭教育	小学1～3年	小学4～6年	中学1年	中学2年	中学3年	合計
①食事	343	202	104	61	59	769
②睡眠	191	124	67	42	41	465
③学校生活	1064	666	309	263	223	2525
④友人関係	1034	566	299	251	170	2320
⑤学力向上	596	472	283	263	177	1791
⑥しつけ	455	247	87	78	51	918
⑦親子の時間	401	231	114	86	59	891
回答なし	55	52	21	20	25	173
	4139	2560	1284	1064	805	9852

●携帯電話・インターネット	小学1～3年	小学4～6年	中学1年	中学2年	中学3年	合計
①メール	413	275	113	69	48	918
②ライン	657	518	368	344	273	2160
③Facebook	117	66	42	35	53	313
④Twitter	75	58	58	66	91	348
⑤ブログ	86	48	29	45	31	239
⑥フィルタリング	266	185	99	68	60	678
⑦オンラインゲーム	445	315	153	119	88	1120
回答なし	455	269	85	65	71	945
	2514	1734	947	811	715	6721

●安全・安心	小学1～3年	小学4～6年	中学1年	中学2年	中学3年	合計
①通学路	909	538	284	224	176	2131
②不審者	1273	787	364	328	240	2992
③地域連携	546	325	140	104	78	1193
④自然災害	426	255	127	102	74	984
回答なし	80	84	22	29	38	253
	3234	1989	937	787	606	7553

●いじめ問題	小学1～3年	小学4～6年	中学1年	中学2年	中学3年	合計
①研修・講演会・調査	258	174	86	57	50	625
②ネットいじめ	561	362	266	259	192	1640
③道徳、モラル	752	465	237	183	150	1787
④学校での指導・対策	1153	715	313	265	206	2652
回答なし	87	85	25	25	34	256
	2811	1801	927	789	632	6960

●不登校・ひきこもり	小学1～3年	小学4～6年	中学1年	中学2年	中学3年	合計
①研修・講演会・調査	310	209	103	88	76	786
②家庭での対応	1067	655	343	284	206	2555
③学校での指導・対策	1073	688	348	294	200	2603
回答なし	148	150	49	48	64	459
	2598	1702	843	714	546	6403

～「いい親の日」宣言～

平成18年12月に改正された教育基本法に「子どもの第一義的責任は保護者にある」と記され、家庭教育力向上のためのさまざまな取り組みがなされております。

高度情報化、グローバル化、それに伴う価値観の多様化など、社会の変わりようは我々保護者の子どもに対する関わり方に大きな変化をもたらしており、私たちはこれらに対しさらなる奮起が求められております。

これまで私たち栃木県PTA連合会は親の学びの大切さを訴え続け、長年にわたり子育てセミナー等を通してその学びの拡充を図ってまいりました。

そこに一定の成果を残すものの、それを上回る速度でさまざまな問題が次々と発生しており、学校に任せきりの現状を打開することが喫緊の課題となっております。

ここに改めて教育責任の分担確認と保護者の資質向上のため、11月8日を「いい親の日」と制定いたします。また、毎月8日を「親の日」とし、下記の指針を示します。

- 一、子どもを大切にします
- 一、家族団らんの時間を持ちます
- 一、おとな自ら規範を示します
- 一、正しい生活リズムをつくります
- 一、人の悪口を言いません

Ⅱ 平成27年度 「子育てセミナー2015」 の参加者を対象とした 調査結果

子育てセミナー2016

「母親だからできること」
～子育ての落とし穴～

日時：2015年11月17日（火）
13：00～15：30

場所：栃木県教育会館大ホール

講師：高濱 正伸 氏



子育てセミナー2015で講演する高濱正伸氏

【講師プロフィール】

1959年熊本県生まれ。

東京大学在学中から塾講師や幼児の野外活動の指導者などのアルバイトを経験。

同大学院修了後、小学校低学年向けの「作文」「読書」「思考力」「野外体験」を重視した学習教室「花まる学習会」を設立。同時に、ひきこもりや不登校児の教育も開始。その後、小学4年生から中学3年生対象の進学塾「スクールFC」を設立。公教育の支援や障がい児の学習支援なども行っている。

～講演内容～

【自立して働く大人に育てるために】

近年、我が国は働けない大人を量産している。例として、①言われたことはやるが、自ら考え行動することができない。②社会に出ても継続して働くことができない。③人とのコミュニケーションができない。④自己主張ができない。⑤引きこもりが増えている。などがあり、特に男子に多く見られる。

原因としては、幼児期に好奇心や冒険心といった「男の子の角（つの）」を折ってしまうお母さんにあるのではないか。それは、わが子のことが心配なあまり、つい手をかけすぎてしまい、危険なことを排除しようとする母心ではあるのだが…。

また、子どものけんかに親が乗り込んでいって事件になるケースもある。

良い子に育つことを願い、危険なことやトラブルを避けて子育てすることは、将来、子どもが社会に出てからの自立心を損なわせる行為である。友達や集団生活など人と関わる中で、嫌な場面に遭遇しても自ら立ち向かうことが、その子にとって将来役に立つ。もめごとや失敗は、将来のための肥やしと捉えることが大事である。

もっと家族や友達と自然体験等を通じて、仲間との関わりや生活の基礎を体験するということが重要である、とのことでした。

【お母さんの「ニコニコカード」を持つとう】

昔は、ご近所との付き合いや地域内の交流があり、新米お母さんのゆりかご（悩みや育児の相談相手）があった。そして、当たり前のように地域の大人たちが子どもたちに目をかけてくれていた。今の社会でそれは困難なこと。

そのような中、孤独なお母さんの頑張り精神は、子どもにとって逆効果となる。

頑張り過ぎず、心からニコニコママになるために安心カードを持つとう。そのカードは、実在するわけではなく、お母さんが笑顔になれるものであれば、ママ友や母親、姉妹、仕事、アイドル、趣味など何でもよい。

子どもにとって大切なのは、安心して帰る場所があるということ。それが「ニコニコカード」を持つお母さんである。

【参加者の声】

- ・笑い涙と母親への応援の言葉、すべてに感動でした。ぜひ、2回目を熱望です。
- ・エネルギーあふれ、こちらパワーをもらいました。話が楽しくあつという間でした。もっと聞きたかった。
- ・自分の子育てを振り返ることができました。今後に生かしたいと思います。
- ・母の思い、妻の思いをおもしろおかしく話してくださり、楽しく時間が過ぎました。「私だけのニコニコカード」を出していきたいと思います。
- ・夫と一緒に聞きたかったです。涙が出るほど心に響きました。

（出典）とちぎPTA新聞192号より

調査人数とお子さんの学年

参加者 約700名

小学低学年	小学中学年	小学高学年	中学生	合計
50名	64名	116名	215名	445名

子育てセミナー2015 会場アンケートより

《携帯電話について》

現在、小・中学校に在籍の一番上のお子様は専用の携帯電話はお持ちですか？

①持っている ②持っていない

「①持っている」とお答えの方にお伺いします

●主な用途は？

①家族間の連絡のみ ②友人との連絡用 ③インターネット ④わからない

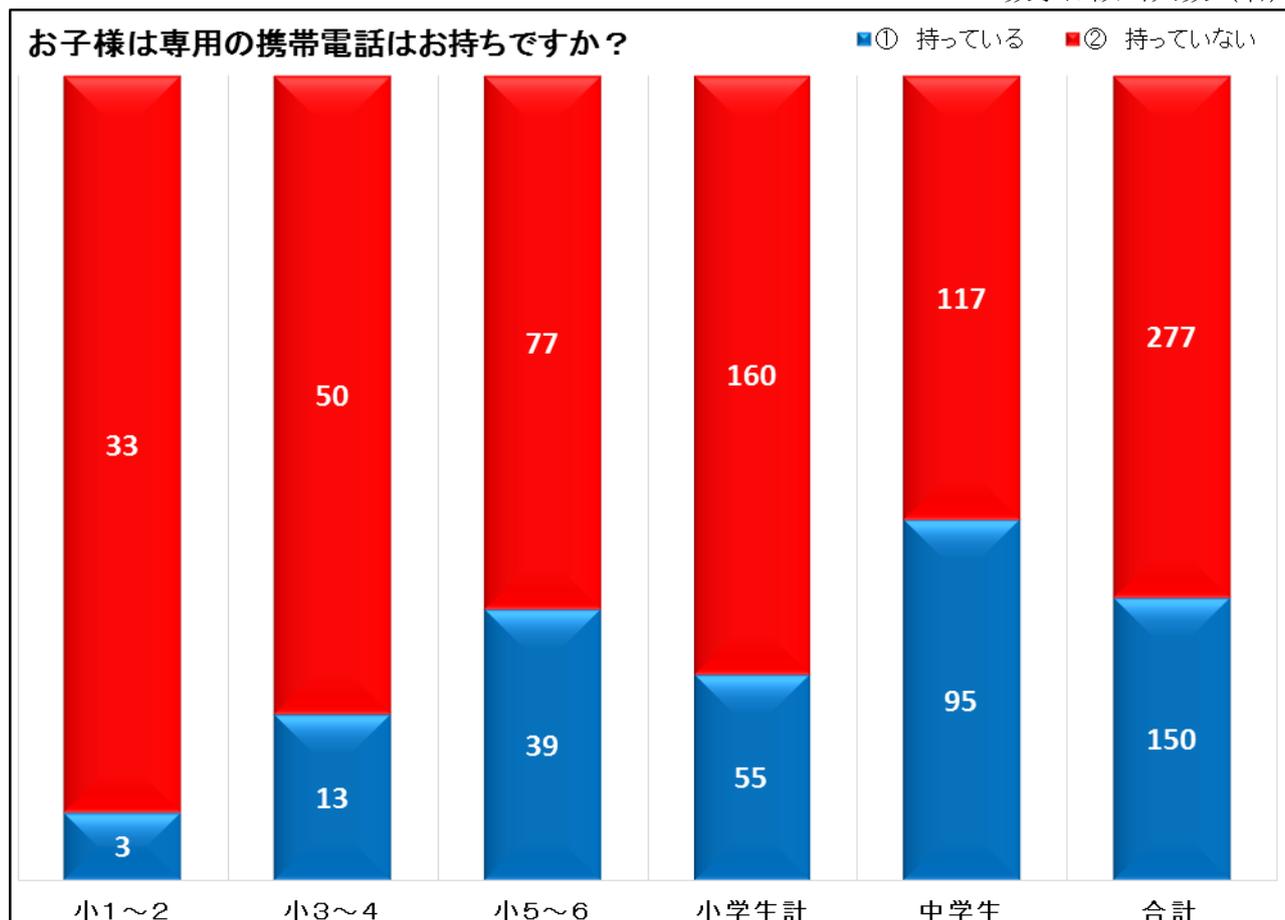
●利用している SNS や機能は？(複数選択可)

①LINE ②Facebook ③Twitter ④ブログ ⑤携帯メール ⑥ゲームアプリ ⑦通話のみ

「②持っていない」とお答えの方にお伺いします。いつごろ持たせようと思いますか？

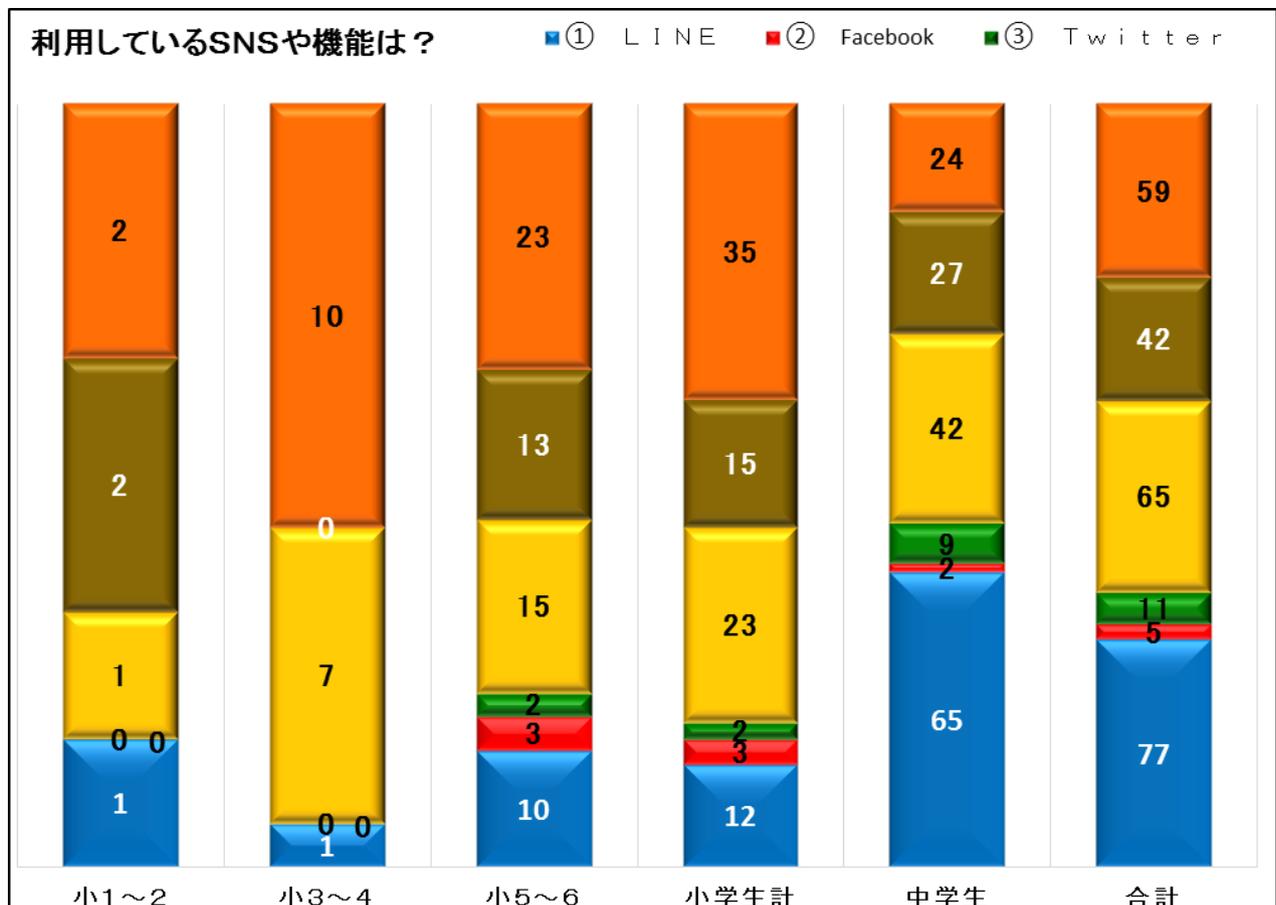
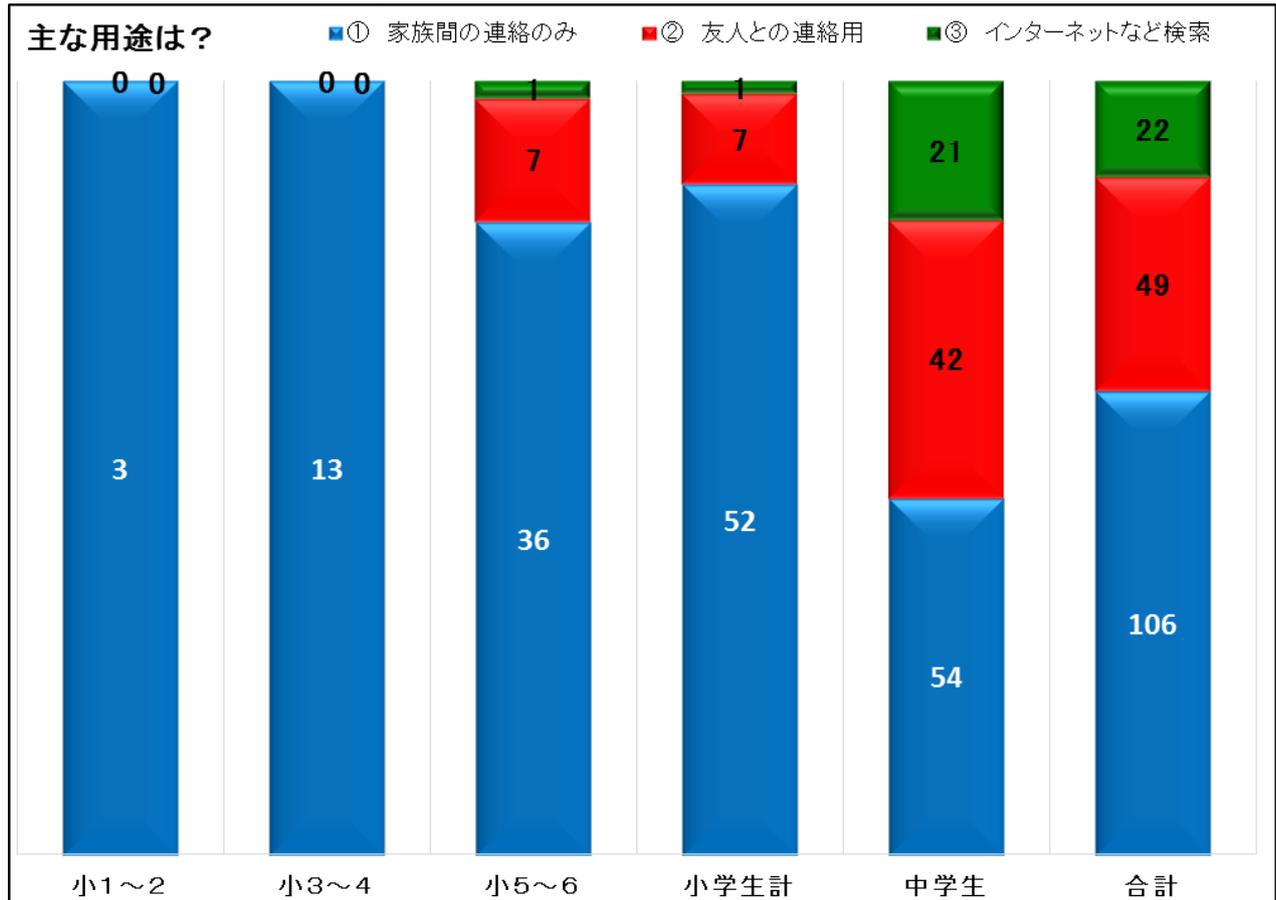
① 校卒業時 ②高校入学時 ③中学入学時 ④欲しいといわれたらすぐにも

数字は該当人数 (名)



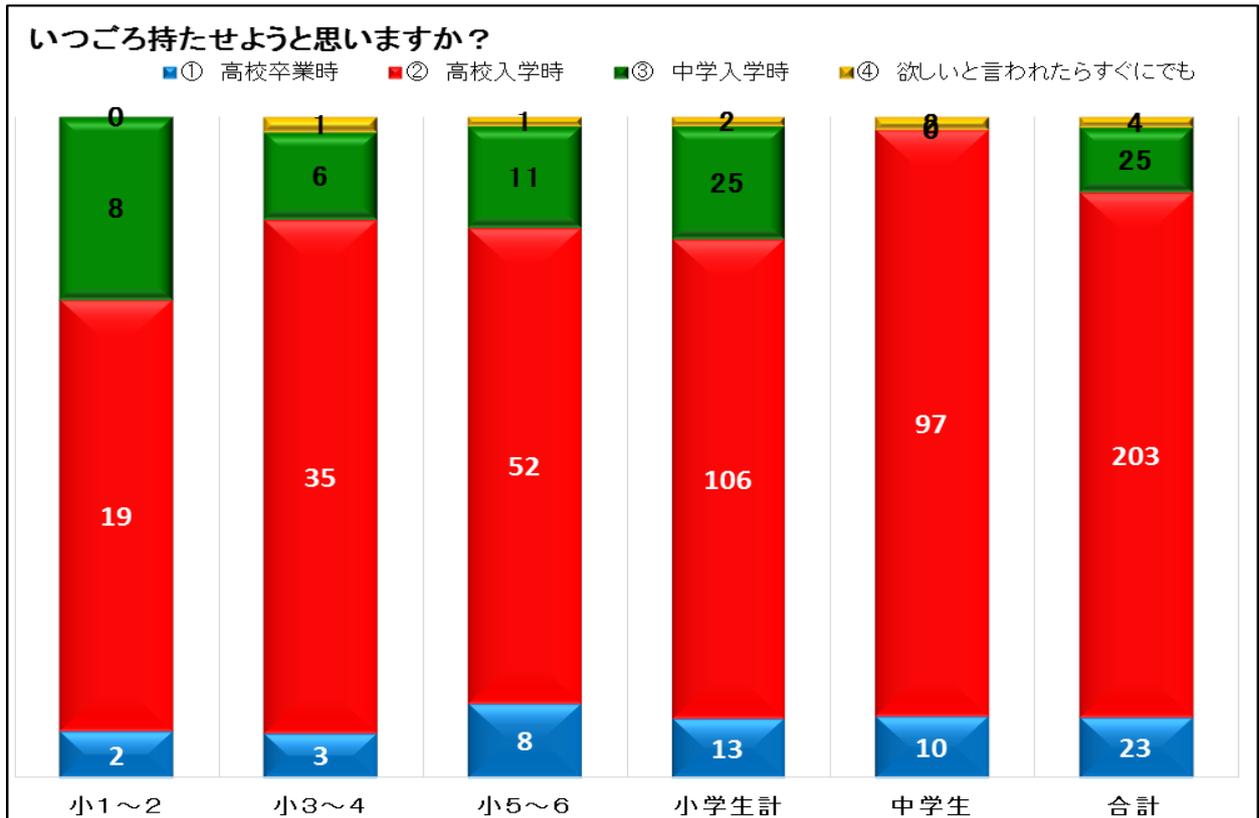
★「携帯電話を持っている」と回答した方への質問

数字は該当人数（名）



★「携帯電話を持っていない」と回答した方への質問

数字は該当人数（名）



小学校5～6年生で約3割、中学生で約4割が所持していることから、保護者の就労時間の関係や、子どもの塾通いなどの生活環境の変化に応じて、携帯を所持させなければならない状況が窺えます。

「家族間の連絡のみ」と答えた小学生は約86%に対し、中学生は約44%と、小学生と中学生とでは主な用途に違いが見られます。中学生の友達との連絡手段は「LINE、携帯メール」の割合が約61%と増えています。

SNSでは、小学校高学年からは、①LINE⑥ゲームアプリの使用が増え、中学生になると約半数が①LINEや⑤メールを活用しており、成長するにつれてその交際範囲を広げる手段としてそれらを用いています。小学校高学年より中学生の方が、⑥ゲームアプリを使用することを制限しており、家庭での対応がされている状況が窺えます。

多くの親が子どもには②高校入学時か③中学入学時から携帯を持たせたいと意識しています。小学校高学年で約3割、中学生で約4割が携帯を所持している実態は、親が思い描いている理想とはかけ離れ、子どもが携帯を契約したい所持したいとの思いに応えている親の状況が見られます。

携帯電話は使用用途を間違えなければとても便利なツールですが、全国的にSNSの使用問題が頻繁に取り上げられています。中学生の半数近くが既に携帯を持ち、持っていない子どもも多くはゲーム機器や iPod touch などで通信をしていると思われる実態を考えると、青少年にネットを制限・禁止しても現実的ではないことがわかります。

何気ない言葉足らずのLINEやメールでのやりとりが“いじめ”や“犯罪”に発展しかねないため、家庭内でもモラルや使用ルール、リスクなどについて話し合い、理解させ、自己防衛ができるようにしたうえで持たせることが大切です。

同時に、情報難民になりがちな保護者世代も、果敢にネット社会と対峙し、子どもたちと一緒に学んでいく姿勢が求められていると考えます。

この冊子の内容を無断転載することを禁じます

平成28年5月発行

栃木県PTA連合会

320-0066 宇都宮市駒生1丁目1番地6号

栃木県教育会館内

TEL 028-622-2833

FAX 028-622-2834

URL <http://www.tochigi-pta.gr.jp>